

やなぎみわ展 神話機械

MIWA YANAGI: Myth Machines

2019年7月6日(土)～9月1日(日)

Sat., July 6 – Sun., September 1 2019

1990年代から現在に至るまで、現代美術のみならず演劇界でも忘れられないアートシーンを毎回くり出してきた美術家やなぎみわ(1967～)。《エレベーター・ガール》で最初に注目を浴びたやなぎは、《マイ・グランドマザーズ》や《フェアリー・テール》といった一連の写真作品で世界的に評価を受け、2009年には第53回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表となる一方、翌2010年には本格的に演劇プロジェクトを始めます。大正期の日本を舞台に、新興芸術運動の揺籃を描いた「1924」三部作で話題を集めるほか、特に台湾製のトレーラー車を母体に2016年から日本各地を巡礼する野外劇は大きな感動を与えました。その舞台作品と並行し、日本神話の物語をモチーフに、福島市内の果樹園で桃を撮影した新作シリーズを制作しており、今回、これらをまとめて、日本で初めて発表します。また本展に向け、京都、高松、前橋、福島の大学等と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」が立ち上がり、マシンによる神話世界も展覧会場に生み出されます。このマシン制作に本県からは、福島県立福島工業高等学校の生徒が携わっています。美術と舞台の両極を往還することで生まれるやなぎ作品は、スペクタクル性とドキュメンタリー性が交錯し、虚実を幾重にも越境していくものです。待望された10年ぶりの本個展では、これまで以上にやなぎの涙み尽くせぬ創造の泉に迫ります。

[関連イベント]

ライブパフォーマンス『MM』 ※本プロジェクトは、JSPS科研費 JP17H00910に関連する作品です。
構成・演出:やなぎみわ 出演:高山のえみ 音楽:内橋和久

7月13日(土)・14日(日) 19:30開演(19:00開場) / 企画展示室 / 各回先着90名 / 料金:
一般・大学生2,000円、高校生1,000円(展覧会観覧券付)、展覧会観覧割引・無料となる場合も左記料金 / 5月25日(土)より美術館総合受付にて販売・電話予約可 / 上演時間1時間程度 / 未就学児童のご入場はご遠慮ください。

やなぎみわトークショー

7月6日(土) 14:00～ / 美術館講堂 / 無料 / 講師:やなぎみわ氏、聞き手:早川博明(当館館長)

ロボット教室

8月3日(土) 13:00～16:30 福島県立美術館、福島県立福島工業高等学校
講師:福島県立福島工業高等学校 教諭 吉田健氏 / 費用:無料 / 対象:小学5年生～中学生 / 要申込 / 先着10名(保護者同伴可) / パソコンを使って簡単なプログラムを作り、LEDを点灯させる体験をします。

触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

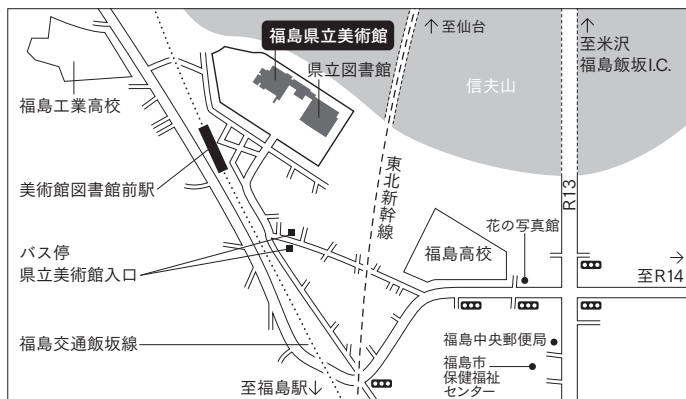
「神話と機械を見聞かする」

9月1日(日) 要申込 / 内容:見える人、見えない人と一緒に、触ったり、音に耳を澄ませたり、話したりしながら、やなぎみわの神話機械、神話の世界を鑑賞します。 / 講師:やなぎみわ氏、当館学芸員
*内容の詳細、申込要領は、福島県立美術館ニュース2019年8-9月号が当館ホームページをご覧ください。

担当学芸員によるギャラリートーク

7月27日(土)、8月10日(土) いずれも15:00～16:00
観覧券購入のうえ、企画展示室入口にお集まりください。

同時開催: 河野保雄コレクション展 6月29日(土)～9月1日(日) 美術館2階常設展示室



[交通のご案内]

電車: JR福島駅東口より福島交通飯坂線→「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分
バス: JR福島駅東口より福島交通バス9番のりばから市内循環もりん2コース→「県立美術館入口」下車、徒歩3分
タクシー: JR福島駅東口、西口より約5分 車: 東北自動車道福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分



[図版・上、左から]

《案内嬢の部屋1F》1997年 京都市美術館蔵
《My Grandmothers: YUKA》2000年 作家蔵
《Untitled I》2004年 作家蔵
《桃を投げる》2018年 作家蔵
《神話機械・ムネメー(投擲マシン)》2019年 撮影:表恒匡
被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会蔵



福島県立美術館
Fukushima Prefectural Museum of Art

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
TEL:024-531-5511 FAX:024-531-0447
https://art-museum.fcs.ed.jp



芸術文化振興基金

